

第2四半期決算概要

2011年3月期

株式会社シンプレクス・ホールディングス

(東証一部：4340)

www.simplex-hd.co.jp

目次

下方修正要因について

2011年3月期 第2四半期決算概要

2011年3月期 通期決算見通し

第二次中期事業計画について

2Q業績（連結）下方修正について

■ 2Q業績実績

	前期実績 (前期比)	期初予想 (前期比)	実績 (前期比)	期初予想比
売上高	64.4億円 (+19.4%)	72.0億円 (+11.6%)	66.9億円 (+3.9%)	- 7.0%
			(60.9億円) (-5.5%)	(-15.4%)
営業利益	10.7億円 (+11.7%)	13.2億円 (+23.0%)	11.6億円 (+8.6%)	- 11.7%
			(11.7億円) (+9.7%)	(-10.8%)
経常利益	10.7億円 (+17.2%)	12.9億円 (+20.3%)	11.2億円 (+4.5%)	- 13.2%
四半期純利益	6.0億円 (+15.6%)	7.2億円 (+18.0%)	6.8億円 (+13.0%)	- 4.3%

※当2Qよりバーチャレクス・コンサルティング（以下バーチャレクス）を持分法適用関連会社から連結子会社へ異動いたしました。
 ※売上高・営業利益の〔 〕の数値は旧シンプルクス・テクノロジーベース（旧連結ベース）での2Q業績実績です。

**2Qのバーチャレクスの連結子会社化の影響もあり、前期比で増収増益を確保
 大型SI案件の受注進まず、期初予想に届かず**

※当社では初期開発売上高として10億円を越える案件を大型案件と定義しています。

通期業績（連結）下方修正について

■ 通期業績予想

	前期実績 (前期比)	期初予想 (前期比)	修正予想 (前期比)	期初予想比
売上高	139.7億円 (+17.0%)	165.0億円 (+18.1%)	150.0億円 (+7.4%)	- 9.1%
			(130.0億円) (-6.9%)	(-21.2%)
営業利益	30.3億円 (+20.3%)	38.0億円 (+25.2%)	22.5億円 (-25.8%)	-40.8%
			(22.0億円) (-27.4%)	(-42.1%)
経常利益	30.0億円 (+21.1%)	37.5億円 (+24.6%)	21.8億円 (-27.5%)	-41.9%
当期純利益	18.4億円 (+55.1%)	22.5億円 (+22.0%)	13.1億円 (-29.0%)	-41.8%

※売上高・営業利益の〔 〕の数値は旧シンプルクス・テクノロジーベース（旧連結ベース）での通期業績予想です。

■ 通期業績下方修正の主な要因

① 大型SI案件の受注確定の遅れ	② UMS（導入）案件の減少	③ 次世代インターネット取引システム に対する研究開発費の追加投資
売上高： -約18億円 営業利益： -約6億円	売上高： -約13億円 営業利益： -約4億円	営業利益： -約5億円

① 大型SI案件の受注確定の遅れについて

大型SI案件引き合いの背景

- 既存システムのリプレイス時期の到来
- 金融再編も契機となる
- 大証FXなど大型案件の成功により数十億規模の案件を任せられるベンダーであると認知される

対象顧客

- メガバンク
- 三大証券
- 取引所

対象システム

- 株式ディーリングシステム
- 債券ディーリングシステム
- デリバティブディーリングシステム
- 取引所/PTSシステム

2Q業績における 業績予想の前提と結果

前提

期初時点で引き合いのあった5案件のうち、1~2案件を2Qまでに受注することを前提として業績予想を策定

結果

5案件のうち1案件は1Qに失注、のこり4案件について受注確定に至らなかったことを受けて、業績予想を修正

通期業績予想（修正後）における 大型SI案件の影響について

現在提案中の4案件のいくつかを早期受注するために引き続き積極的な提案活動を実施するものの、これらの案件の受注時期等を勘案すると、今期の通期業績への寄与は小さくなる見込みであることから、修正予想には織り込まず

案件の大型化により提案から受注・案件化までの足が長くなる傾向に顕在化している案件の早期受注、および潜在的な新規案件の発掘を目指す

① 大規SI案件獲得に向けた取り組みについて

すでに顕在化している案件（計4案件）獲得に向けて

積極的な営業活動を引き続き強力推進し、早期受注を目指す

潜在化している案件発掘に向けた施策

施策1 メガバンク・三大証券・取引所向けのアカウントセールスの強化

施策2 グローバル競争力のあるホールセールプロダクトの強化

② UMS（導入）案件の減少について

UMS（導入）案件減少の主な要因

上期：今年8月からのレバレッジ規制を懸念し、金融機関がIT投資を控えたため
これまで成長ドライバーとなっていたFXの新規導入・カスタマイズ案件が減少

下期：来春リリース予定の次世代インターネット取引システム（以下：次世代SPRINT）
を視野に入れて現行版の販売を抑制予定のため、案件数が減少する見通し

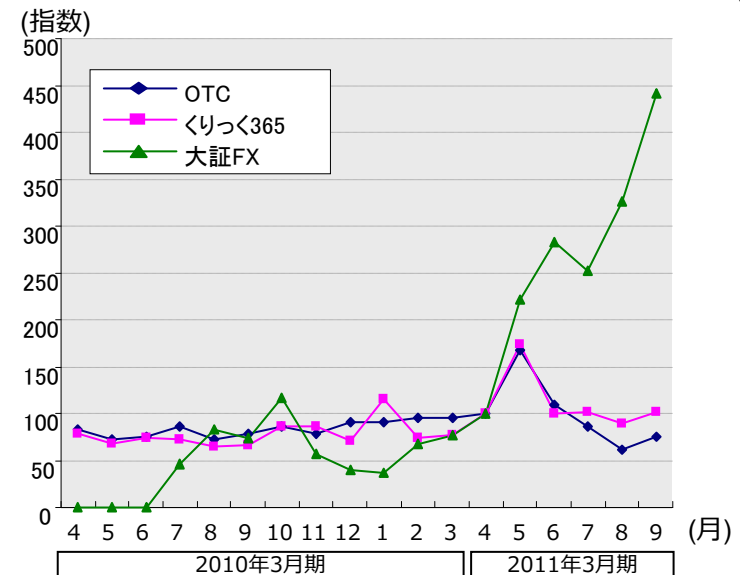
FXを中心としたUMS（導入）案件の今後の展望

レバレッジ規制の影響が出尽くしたことにより、取引所FX（くりっく365や大証FX）を中心として金融機関のIT投資意欲は回復傾向にあると見込む



次世代SPRINTの早期開発を急ピッチで行い、さらなるシェア拡大と収益力の向上を目指す

FX市場取引量推移(2010年4月を100とした指数) ※



③次世代インターネット取引システムに対する研究開発費の追加投資

次世代版の開発が必要となる背景

外部要因

FX市場の急拡大を背景に
高いシステム安定性が求められている

FX分野において競合他社が出現している

内部要因

数年前のアーキテクチャで開発しているため
機能面で競争力が失われる可能性がある

システム構造上、ミドルウェア、インフラなど
運用コストの低減に限界がある

FX分野の一定規模以上の顧客で
システムキャパシティの拡充が求められている



次世代版の開発メリット

システム安定性に対する顧客ニーズへの対応

開発・運用コストの低減による収益力向上

機能向上に伴うさらなる商品競争力の強化

共通プラットフォーム化によるクロスセル効果

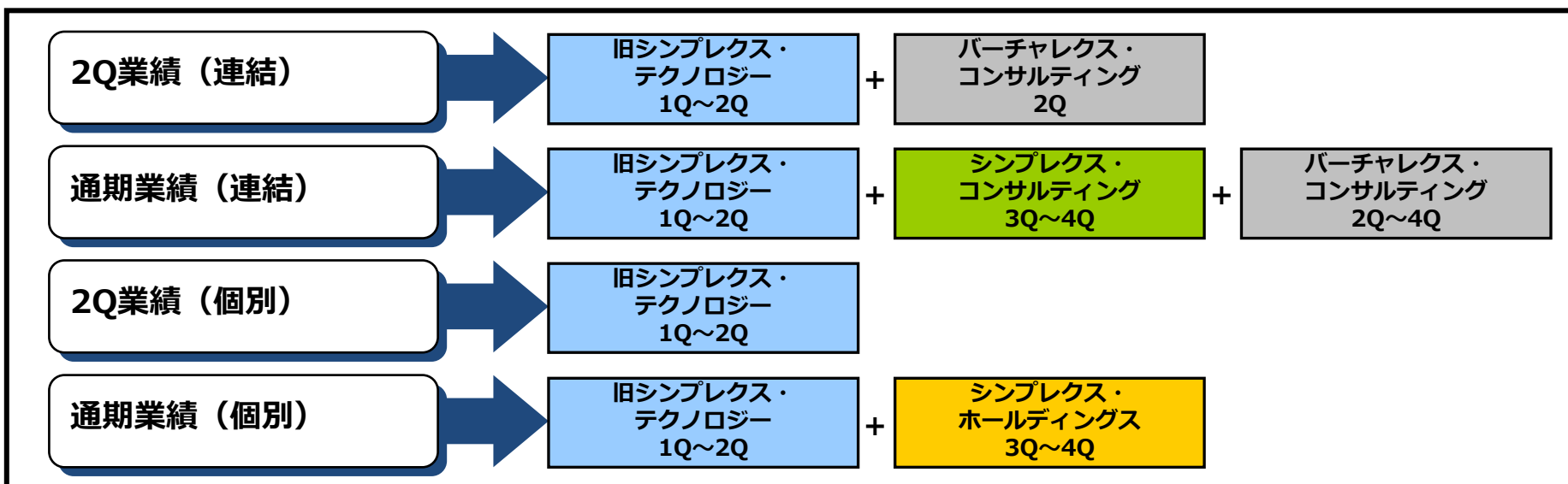
**下期に5億円の追加投資を実施
ゼロベースでパッケージを開発し、来春のサービス化を目指す
既存顧客のリプレースだけで年間約4億円の運用コスト削減となる見通し**

持株会社化とバーチャレクス連結子会社化に伴う当期業績の考え方について

■ 持株会社化とバーチャレクス連結子会社化について



■ 当期業績の考え方について



2011年3月期における役員賞与の全額カットと配当金について

経営責任を明確化するため役員賞与を全額カット

2010年3月期における役員賞与総額：185百万円

配当金については修正せず、1株あたり480円で実施予定（配当性向：20%）

利益配分に関する基本方針として、配当性向を10～15%とする完全業績連動型の配当を実施しているが、配当金については期初予想を据え置いているため、今期配当性向は20%となる見込み

2010年3月期における配当金：400円（配当性向：11.9%）

エグゼクティブサマリー

■ 2Q業績（連結）について

	前期実績 (前期比)	期初予想 (前期比)	実績 (前期比)	サマリー
売上高	64.4億円 (+19.4%)	72.0億円 (+11.6%)	66.9億円 (+3.9%)	■ 2Qまでに大型SI案件が受注に至らなかったことに加え、FXを中心としたUMS(導入) 案件の減少により前期比で微増にとどまる
営業利益	10.7億円 (+11.7%)	13.2億円 (+23.0%)	11.6億円 (+8.6%)	■ 売上高減収に伴う売上総利益の減益に加え、期初計画を上回る研究開発費を計上した影響により前期比で微増にとどまる
受注高	77.3億円 (+24.5%)	—	70.8億円 (-8.4%)	■ 2Qまでに大型SIの受注確定に至らなかったことを受けて前期比でマイナスとなる
受注残高	77.2億円 (+20.3%)	—	102.4億円 (+32.6%)	■ 過去最高水準を記録 ■ 内今期計上予定分：58.8億円

■ 通期業績（連結）について

	前期実績 (前期比)	期初予想 (前期比)	修正予想 (前期比)	サマリー
売上高	139.7億円 (+17.0%)	165億円 (+18.1%)	150億円 (+7.4%)	■ 今期売上として134億円が確定済み。16億円程度下期での積み増しに向け営業をする必要あり
営業利益	30.3億円 (+20.3%)	38.0億円 (+25.2%)	22.5億円 (-25.8%)	■ 売上高減収に伴う売上総利益の減益に加え、期初計画を5億円上回る研究開発費を計上予定

※ バーチャレクスを当2Qから連結子会社化している影響により、2Q連結業績への影響は売上高で6億円、営業利益での影響はほぼゼロです。
また、通期連結業績への影響は売上高で20億円、営業利益で1億円の増益に寄与する一方、のれんの償却費として0.6億円計上する見込みです。

2011年3月期 第2四半期決算概要

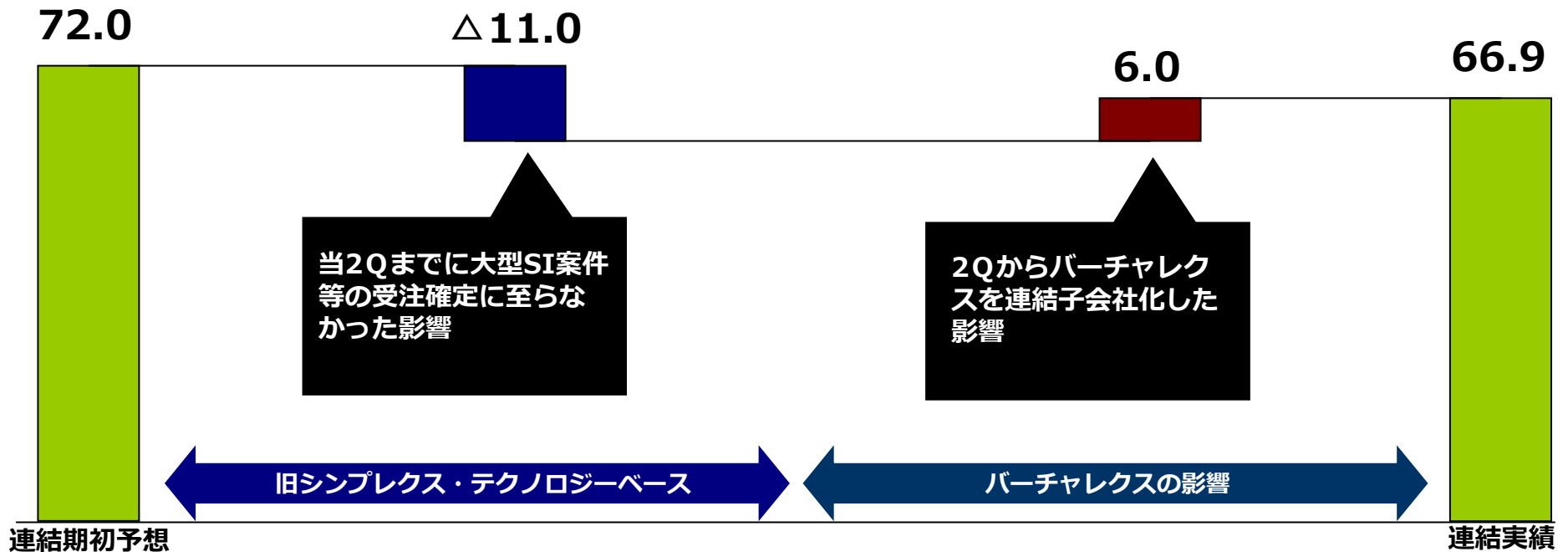
2Q決算（連結）実績

(百万円)	2010/3期 2Q	2011/3期 2Q	前期比
売上高	6,449	6,699	+ 3.9%
売上総利益（率）	2,700 (41.9%)	2,996 (44.7%)	+ 11.0%
販管費（率）	1,626 (25.2%)	1,830 (27.3%)	+ 12.5%
内 研究開発費（率）	611 (9.5%)	773 (11.5%)	+ 26.4%
営業利益（率）	1,073 (16.6%)	1,165 (17.4%)	+ 8.6%
経常利益（率）	1,072 (16.6%)	1,120 (16.7%)	+ 4.5%
当期純利益	609	689	+ 13.0%
1株当たり四半期純利益	1,111.27 円	1,250.08 円	+ 12.5%
従業員数：期中平均	304 人	481 人 ※	+ 58.2%

※2011/3期2Qの従業員数には、当2Qより連結子会社化したバーチャレクスの従業員数が126名含まれております。

2Q売上高（連結）の未達要因

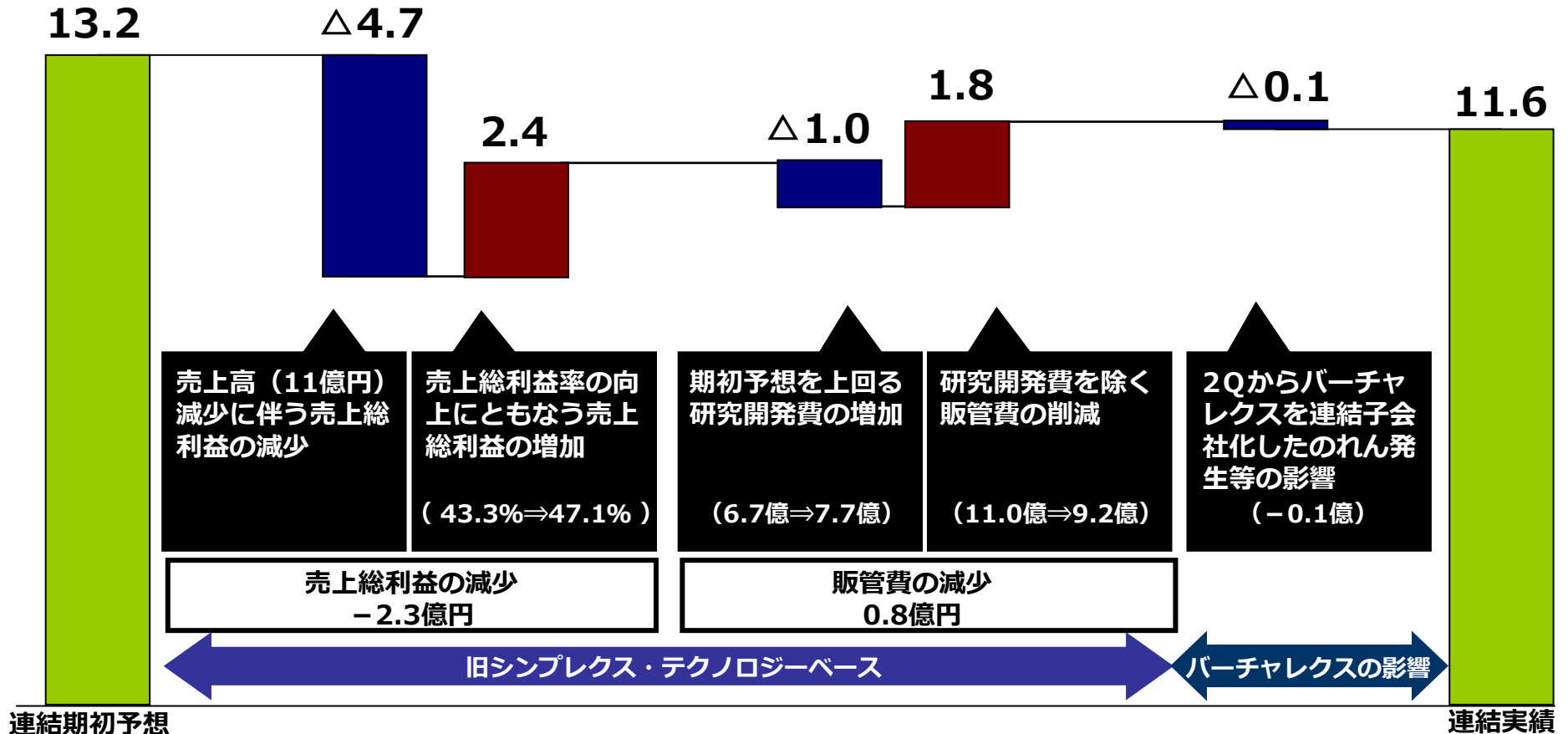
(単位：億円)



↓ 2Qの連結売上高は、期初予想72.0億円を5.1億円下回る66.9億円となる

2Q営業利益（連結）の未達要因

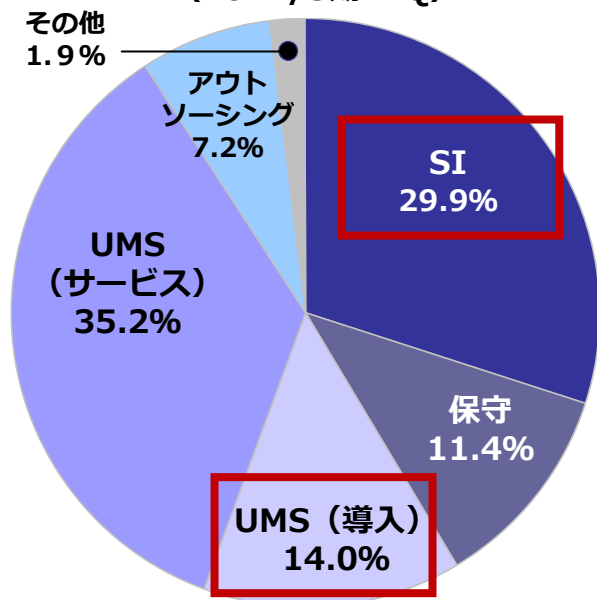
(単位：億円)



↓ 2Qの連結営業利益は、期初予想13.2億円を1.6億円下回る11.6億円となる

当社グループの事業セグメントについて

事業セグメント別
売上高構成比
(2011/3期 2Q)



□ SIとUMS（導入）は“システム開発”という点で共通しています。

事業セグメント	特徴	収益形態
SI (システム・インテグレーション)	顧客の要望に沿ってシステムを開発・納入する受託開発が中心	フロー型
保守	SIで納入したシステムの運用・保守作業	ストック型 ※1
UMS（導入）	UMS（サービス）の導入・機能追加の開発費用を顧客が負担する場合に発生。当社負担分は研究開発費へ	フロー型 ※2
UMS（サービス）	当社が開発・運用・所有するシステムを顧客にサービス提供	成功報酬型 ストック型
アウトソーシング	コールセンターサービスの提供	ストック型
その他	大半がハードウェアなど物品販売によるもの	フロー型

※1 フロー型収益とは、売り切り型を特徴とする流動的な収益形態を指します。

※2 ストック型収益とは、毎月一定の固定収入を見込むことができる安定的な収益形態を指します。

※3 2Qから連結子会社となったバーチャレックスの事業セグメントはSIとアウトソーシングに分類されます。

2Q売上高（連結）の増減要因：事業セグメント別



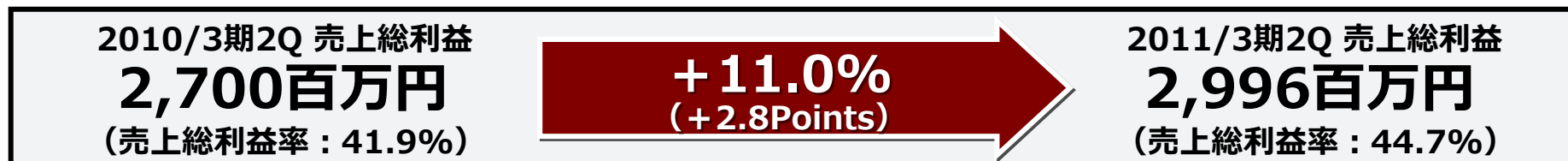
(百万円)	2010/3期 2Q 売上高 (構成比)	2011/3期 2Q 売上高 (構成比)	前期比
SI	1,908 (29.5%)	2,006 (29.9%)	+ 5.1%
内 シンプレクス分	1,908 (29.5%)	1,876 (28.0%)	- 1.7%
内 バーチャレクス分	- (-)	129 (1.9%)	-
保守	801 (12.4%)	767 (11.4%)	- 4.2%
UMS (導入)	2,114 (32.7%)	944 (14.0%)	- 55.3%
UMS (サービス)	1,578 (24.4%)	2,364 (35.2%)	+ 49.8%
アウトソーシング	- (-)	485 (7.2%)	-
その他 (物販など)	46 (0.7%)	130 (1.9%)	+ 181.5%

SIは2Qに大型SI案件の受注確定に至らなかった影響により、シンプレクス個別で減収

UMS (導入) は前期に大型案件等があった反動により大幅減

UMS (サービス) は前期2Q以降の新規契約分に加え、今年5月・9月に為替が大きく変動したことを受けてFXのインセンティブ収益が増加

2Q売上総利益（連結）の増減要因：事業セグメント別



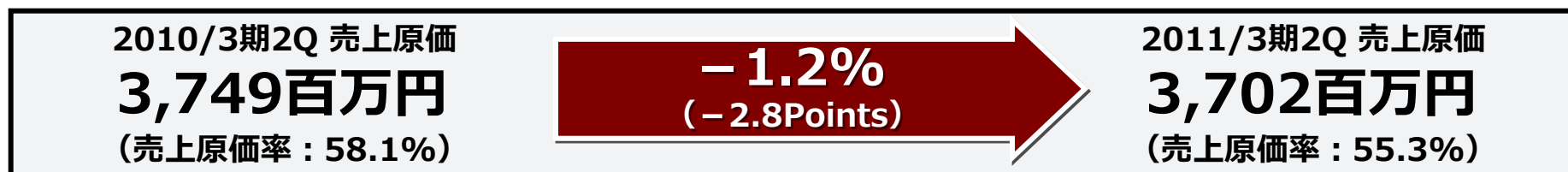
(百万円)	2010/3期 2Q 売上総利益 (利益率)	2011/3期 2Q 売上総利益 (利益率)	利益率前期比
SI	642 (33.7%)	867 (43.2%)	+ 9.5Points
内 シンプレクス分	642 (33.7%)	811 (43.2%)	+ 9.5Points
内 バーチャレクス分	- (-)	56 (43.3%)	-
保守	401 (50.2%)	407 (53.1%)	+ 2.9Points
UMS (導入)	725 (34.3%)	550 (58.3%)	+24.0Points
UMS (サービス)	884 (56.0%)	948 (40.1%)	-15.9Points
アウトソーシング	- (-)	92 (19.0%)	-
その他 (物販など)	46 (100%)	130 (100%)	± 0.0Points

SIの当期利益率は、前期に不採算案件が発生した反動で利益率が回復


UMS (導入) は1Qに特定の好採算案件が1件発生したため、利益率が一時的に大きく伸びる

UMS (サービス) は期初予想に織り込んでいた大証FX関連サービスの取引量低迷に加え、特定のFX案件で発生した障害対応に伴うコスト増により、利益率が大幅減

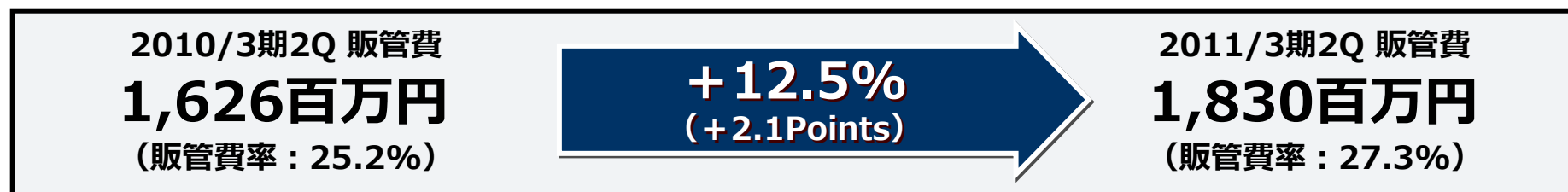
2Q売上原価（連結）の増減要因



(百万円)	2010/3期 2Q 売上原価 (構成比)	2011/3期 2Q 売上原価 (構成比)	構成比前期比
材料費	456 (11.2%)	609 (13.1%)	+ 1.9Points
エンジニア人件費	2,958 (73.0%)	3,253 (69.7%)	- 3.3Points
内 労務費 ※	826 (20.4%)	1,536 (32.9%)	+ 12.5Points
内 外注費	2,131 (52.6%)	1,716 (36.8%)	- 15.8Points
経費	640 (15.8%)	800 (17.2%)	+ 1.4Points
当期総製造費用	4,054 (100%)	4,664 (100%)	
期首仕掛棚卸高	581	32	
期末仕掛棚卸高	274	203	
他勘定振替	613	790	
当期製品製造原価	3,749	3,702	


労務費が新卒採用の強化に伴う正社員数の増加により増加する（バーチャレクス分：426百万円）
一方、外注費がエンジニアの内部構成比の変化（外注費が正社員にシフト）に伴い減少する

2Q販管費（連結）の増減要因

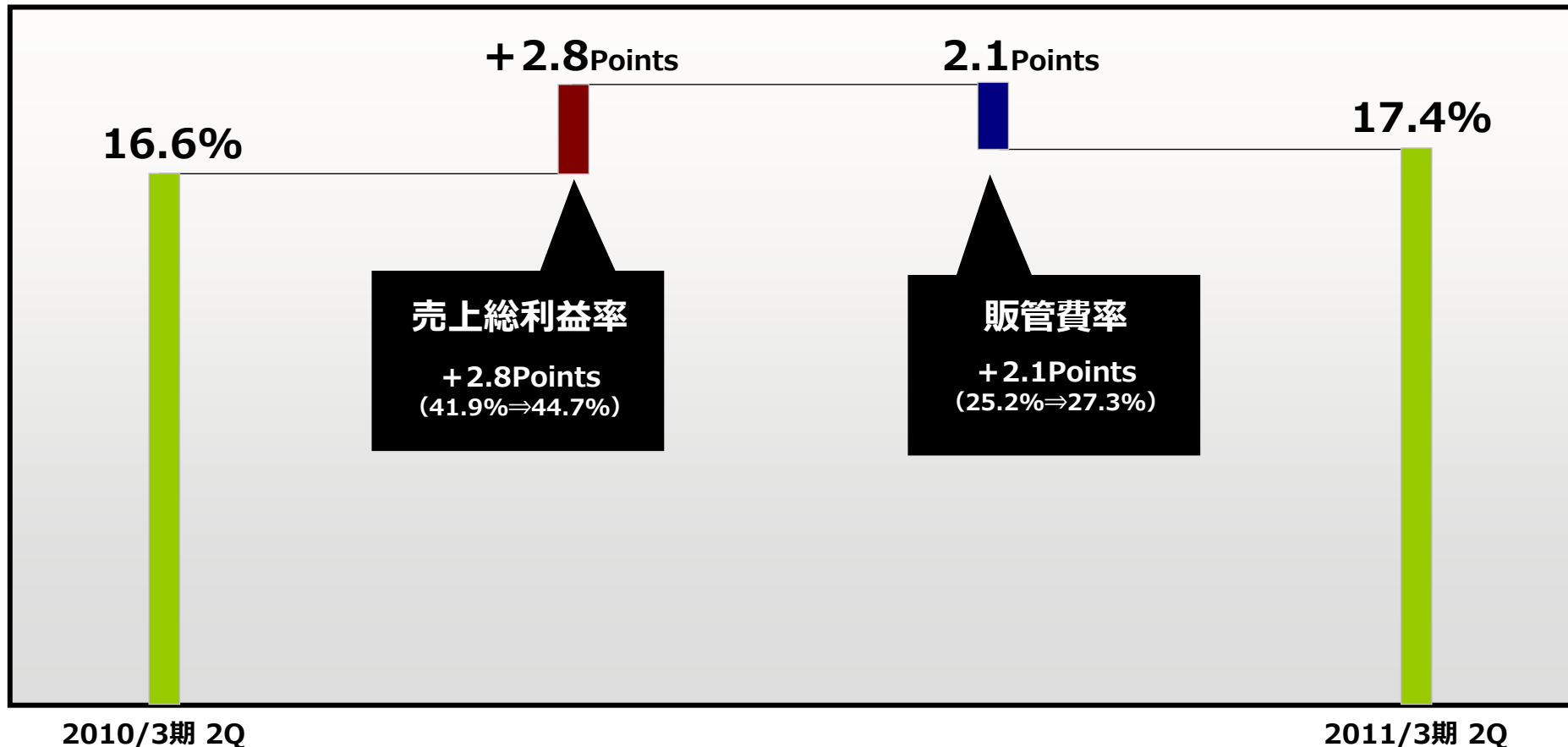
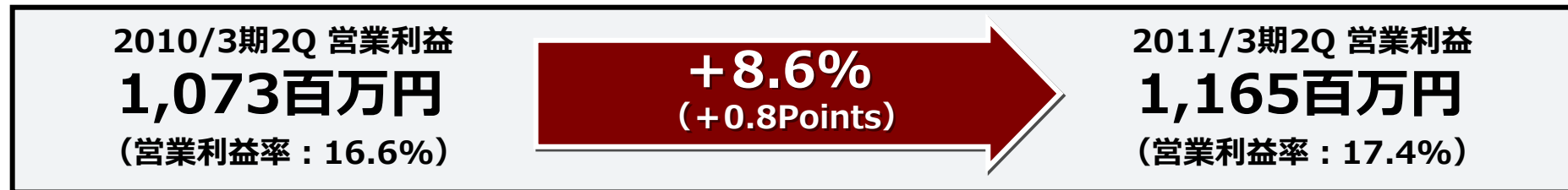


(百万円)	2010/3期 2Q 販管費 (販管費率)	2011/3期 2Q 販管費 (販管費率)	販管費率前期比
役員賞与引当金繰入	68 (1.1%)	0 (0.0%)	- 1.1Points
労務費	464 (7.2%)	493 (7.4%)	+ 0.2Points
採用教育費	77 (1.2%)	101 (1.5%)	+ 0.3Points
研究開発費	611 (9.5%)	773 (11.5%)	+ 2.0Points
その他	405 (6.3%)	462 (6.9%)	+ 0.6Points

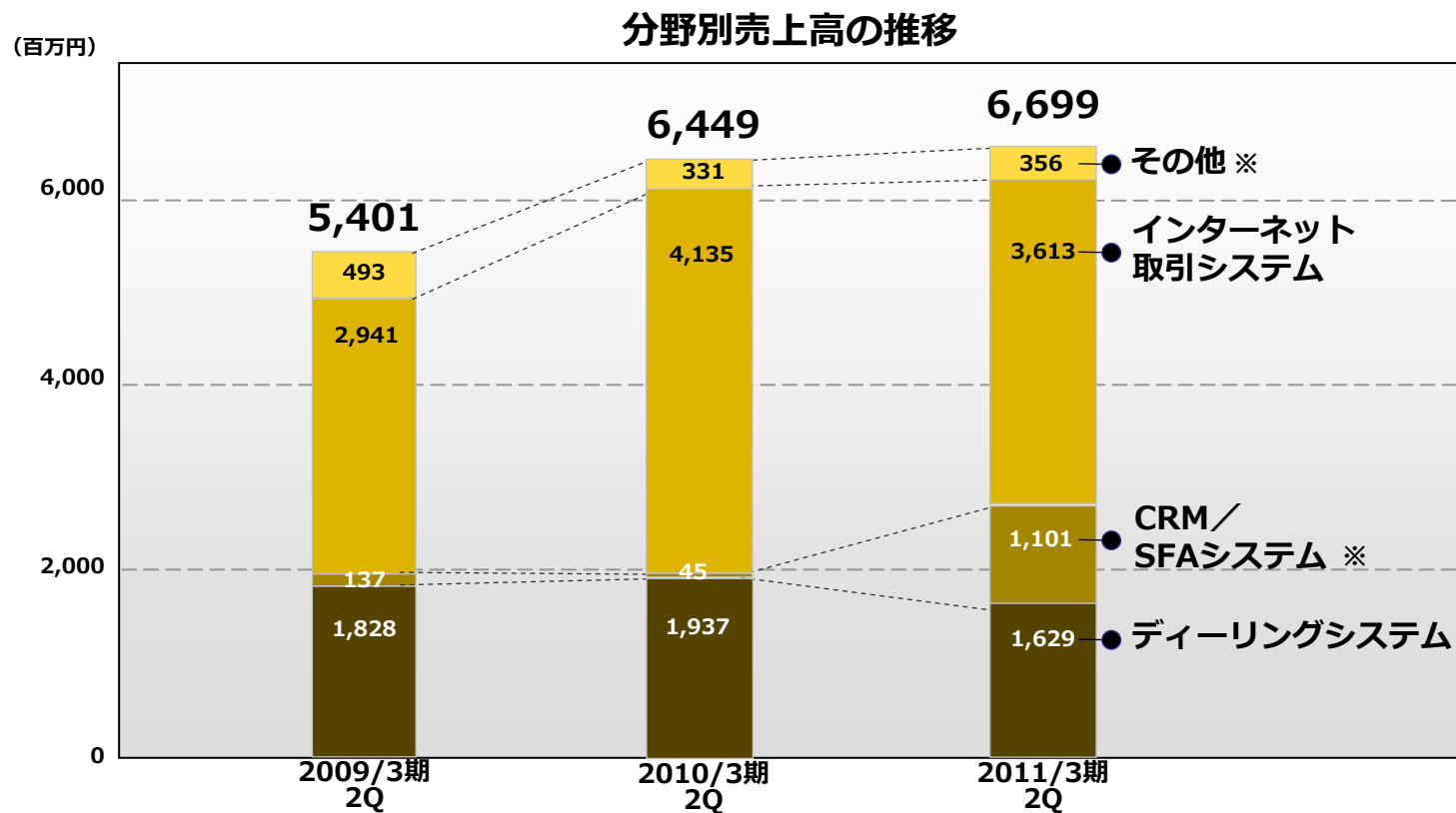
 下方修正による今期役員賞与の全額カットを受けて、役員賞与引当金繰入がゼロに

 UMSへ積極的な先行投資を実施したことにより、研究開発費が増加

2Q営業利益率（連結）の増減要因



2Q分野別傾向分析（連結）①：売上高の推移



ディーリングシステム：従来の主力事業であったがここ数年低調

インターネット取引システム：ここ数年の成長ドライバーであったが当2Qは低調

※当2Qより連結子会社化したバーチャレクス・コンサルティングのすべての売上高を「CRM/SFAシステム」に計上しているため、当該分野が大幅増収と なっています。「その他」は、大半がハードウェアなどの物品販売です。 22

2Q分野別傾向分析（連結）②：インターネット取引システム

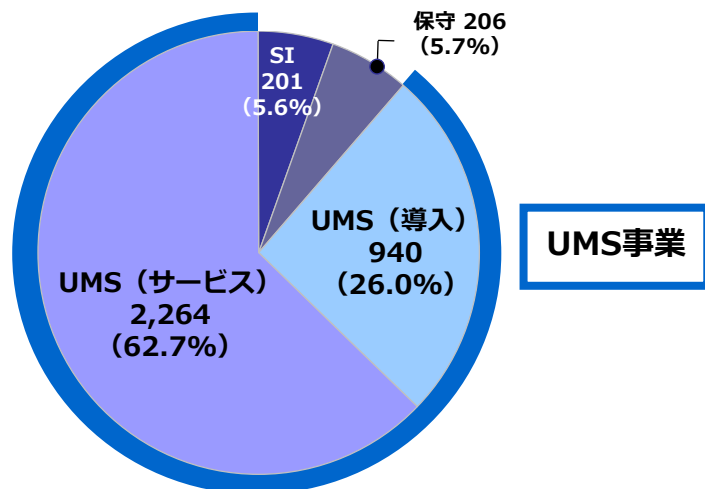
インターネット取引システム
2011/3期2Q 売上高

3,613百万円

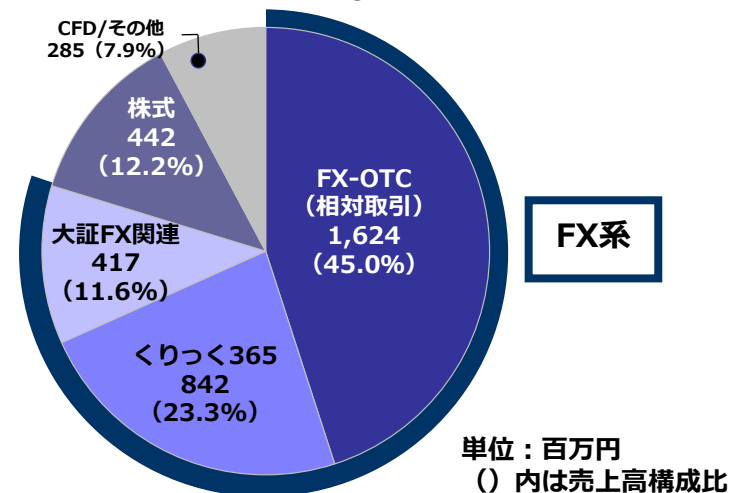
(前期比：-12.6%)

躍進するUMS系が成長ドライバーだが
当2Qは前期比で減収となる

事業セグメント別構成比
(2011/3期 2Q)



ソリューション別構成比
(2011/3期 2Q)



単位：百万円
() 内は売上高構成比

■ UMS系の売上が大半を占める

- FXが全体の約8割を占める
- 新規案件はOTCから取引所FXに移行

※1 大証FXとは、大阪証券取引所が2009年7月に創設した取引所FXの愛称です。

※2 くりっく365とは、東京金融取引所に上場している取引所FXの愛称です。

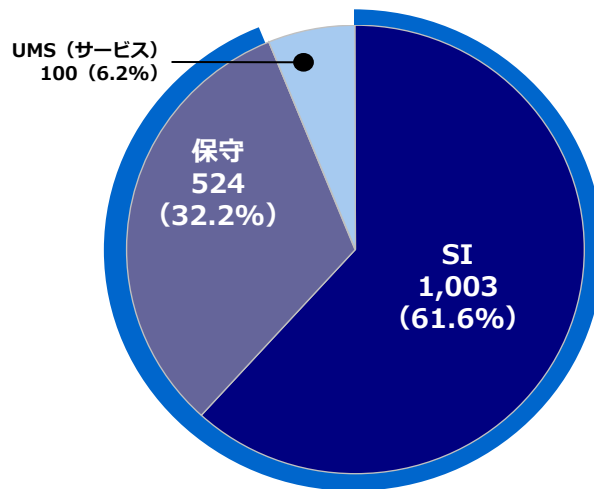
※3 CFDとはContract for differenceの略称で、様々な金融商品の差額売買を証拠金によって行う差金決済取引を指します。

2Q分野別傾向分析（連結）③：ディーリングシステム

ディーリングシステム
2011/3期2Q 売上高
1,629百万円
(前期比：-15.9%)

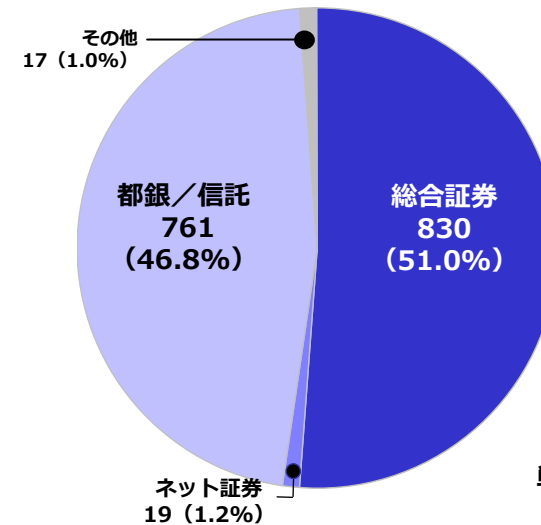
SI／保守が中心の従来からの主力事業

事業セグメント別構成比
(2011/3期 2Q)



SI事業

顧客セグメント別構成比
(2011/3期 2Q)



単位：百万円
() 内は売上高構成比

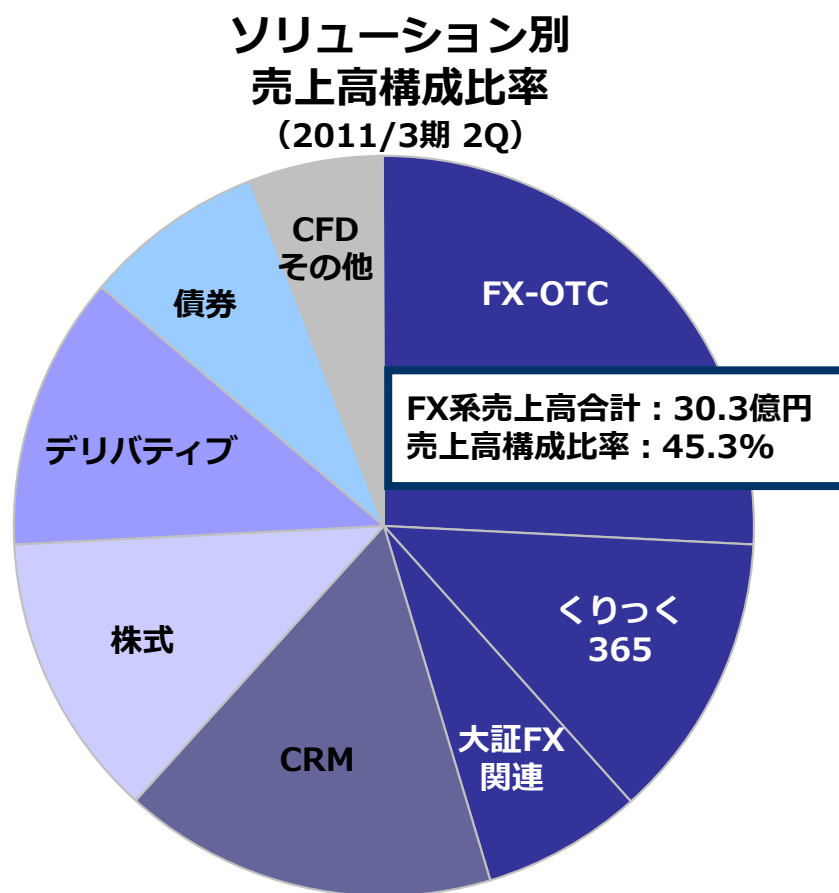
■ SI／保守が大半を占める

■ 従来の準大手証券中心から都銀／三大証券に移行

2Q分野別傾向分析（連結）④：総括

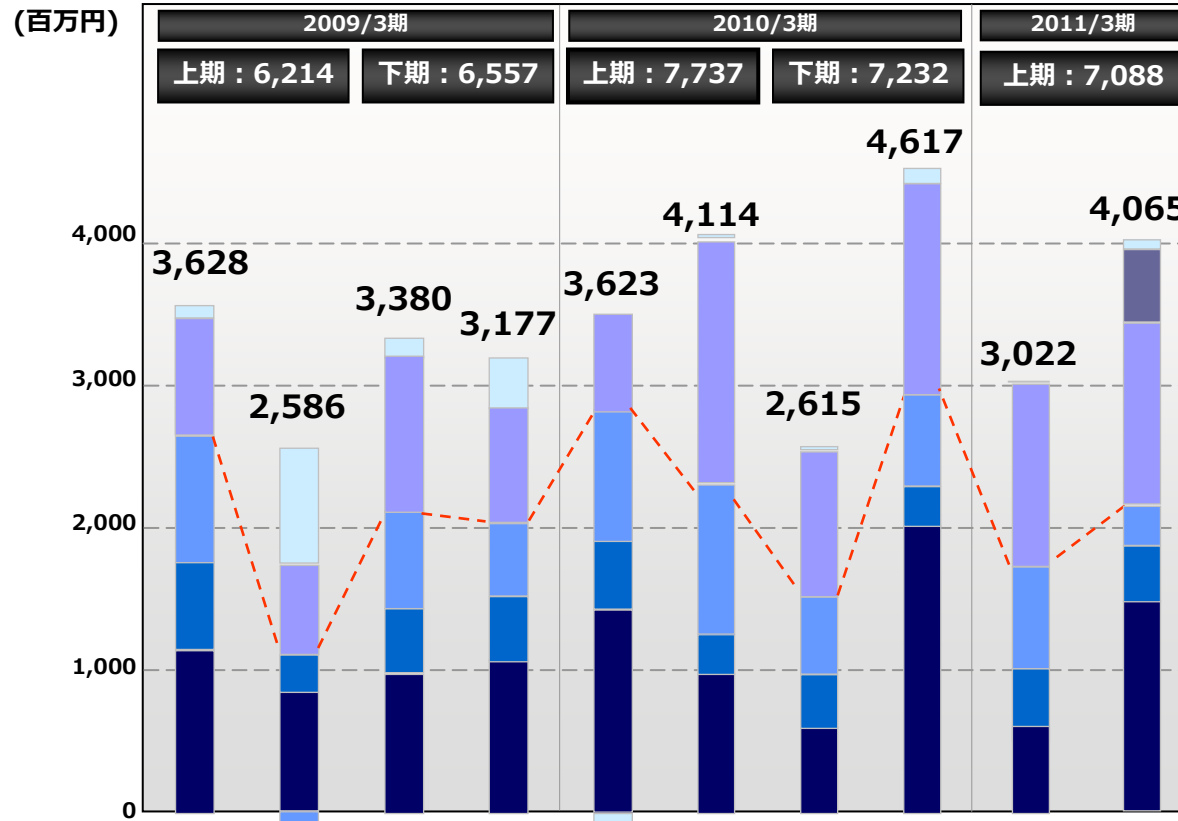
	分野別	
	ディーリングシステム	インターネット取引システム
事業セグメント	SI/保守が中心	UMS系が中心
顧客	都銀/総合証券が半々	総合証券/ネット証券 ネット銀行/FX專業業者 取引所など多岐に渡る
現状	ここ数年横ばい	ここ数年の当社の成長ドライバー レバレッジ規制の影響等を受けて 当2QはFX関連案件が伸び悩む
成長ドライバー	メガバンク/三大証券/取引所 向け大型SI案件	FX
トピック	前期3Qから大型案件の 引き合いが急増するも 当2Qまでに受注に至らず	FXはOTCから取引所取引 (大証FX/くりっく365)へ移行 レバレッジ規制の影響は出尽くす

2Qソリューション別売上高（連結）構成比



		売上高	構成比
FX	OTC	1,721百万円	25.7%
	くりっく365	845百万円	12.6%
	大証FX関連	466百万円	7.0%
CRM		1,101百万円	16.4%
株式		827百万円	12.3%
デリバティブ		799百万円	11.9%
債券		552百万円	8.2%
CFD/その他		385百万円	5.8%
売上高合計		6,699百万円	100%

受注高（連結）の推移：事業セグメント別



2Q（7月～9月）受注高
：40.6億円
 （前期比：-1.2%）

2Q（7月～9月）受注高(40.6億円)の内訳
 ■ シンプレクス・コンサルティング分：34.3億円
 ■ パーチャレクス分：6.3億円
 ⇒アウトソーシング：5.1億円/SI：1.2億円

2Q（7月～9月）受注高の増減要因

前期3Q後半から引き合いが続くディーリングシステムを中心とした大型SI案件の受注確定に至らなかった影響を受けて、2Q受注高が前期並みにとどまる


	2009/3期 1Q	2009/3期 2Q	2009/3期 3Q	2009/3期 4Q	2010/3 1Q	2010/3 2Q	2010/3 3Q	2010/3 4Q	2011/3 1Q	2011/3 2Q
■ その他	91	855	149	357	-191	28	28	113	8	56
■ アウトソーシング	-	-	-	-	-	-	-	-	-	508
■ UMS（サービス）	835	665	1,103	796	747	1,768	1,014	1,515	1,319	1,265
■ UMS(導入)	903	-110	693	504	1,008	1,045	552	594	682	323
■ 保守	629	286	454	450	527	286	392	317	443	419
■ SI	1,167	888	980	1,069	1,532	985	627	2,075	568	1,492


※10/3期より、「その他」については物販売上の手数料部分のみを計上するネットイング処理を実施しているため、10/3期1Q「その他」の受注高がマイナスとなっています。

2011年3月期 通期決算見通し

通期決算（連結）見通し

(百万円)	2010/3期実績	2011/3期期初予想	前期比	2011/3期修正予想	前期比
売上高	13,970	16,500	+18.1%	15,000	+7.4%
売上総利益（率）	6,020 (43.1%)	7,130 (43.2%)	+18.4%	6,149 (41.0%)	+2.1%
販管費（率）	2,986 (21.4%)	3,330 (20.2%)	+11.5%	3,899 (26.0%)	+30.6%
内 研究開発費（率）	1,093 (7.8%)	1,200 (7.3%)	+9.8%	1,700 (11.3%)	+55.5%
営業利益（率）	3,034 (21.7%)	3,800 (23.0%)	+25.2%	2,250 (15.0%)	-25.8%
経常利益（率）	3,009 (21.5%)	3,750 (22.7%)	+24.6%	2,180 (14.5%)	-27.5%
当期純利益	1,844	2,250	+22.0%	1,310	-29.0%
1株当たり当期純利益	3,360.46 円	4,092.10 円	+21.7%	2,376.06 円	-29.2%
1株当たり配当金	400 円	480 円	+20.0%	480 円 ※	+20.0%
従業員数：期中平均	301 人	360 人	+19.6%	492 人 ※	+63.5%


売上高はバーチャレクスの連結子会社化の影響で対前期比で増収となる一方、営業利益については上場来初めてとなる減益の着地となる見通し

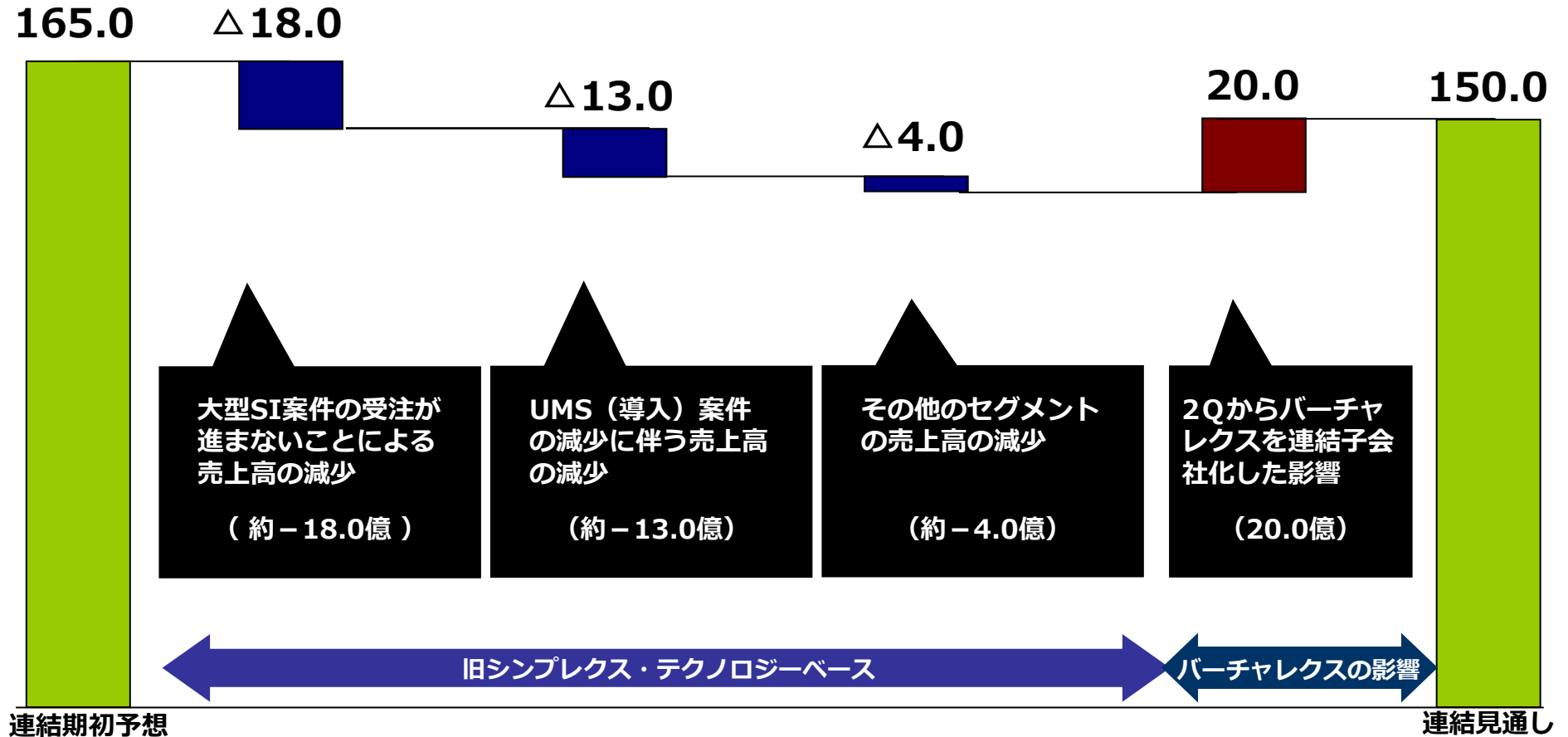

配当金については修正せず、1株あたり480円で実施予定（配当性向：20%）

※利益配分に関する基本方針として、当社は配当性向を10～15%とする完全業績連動型の配当を実施しておりますが、配当金については期初予想を据え置いているため、今期配当性向は20%となる見込みです。

※2011/3期修正予想の従業員数には、当2Qより連結子会社化したバーチャレクスの従業員数が132名含まれております。

通期売上高（連結）の修正要因

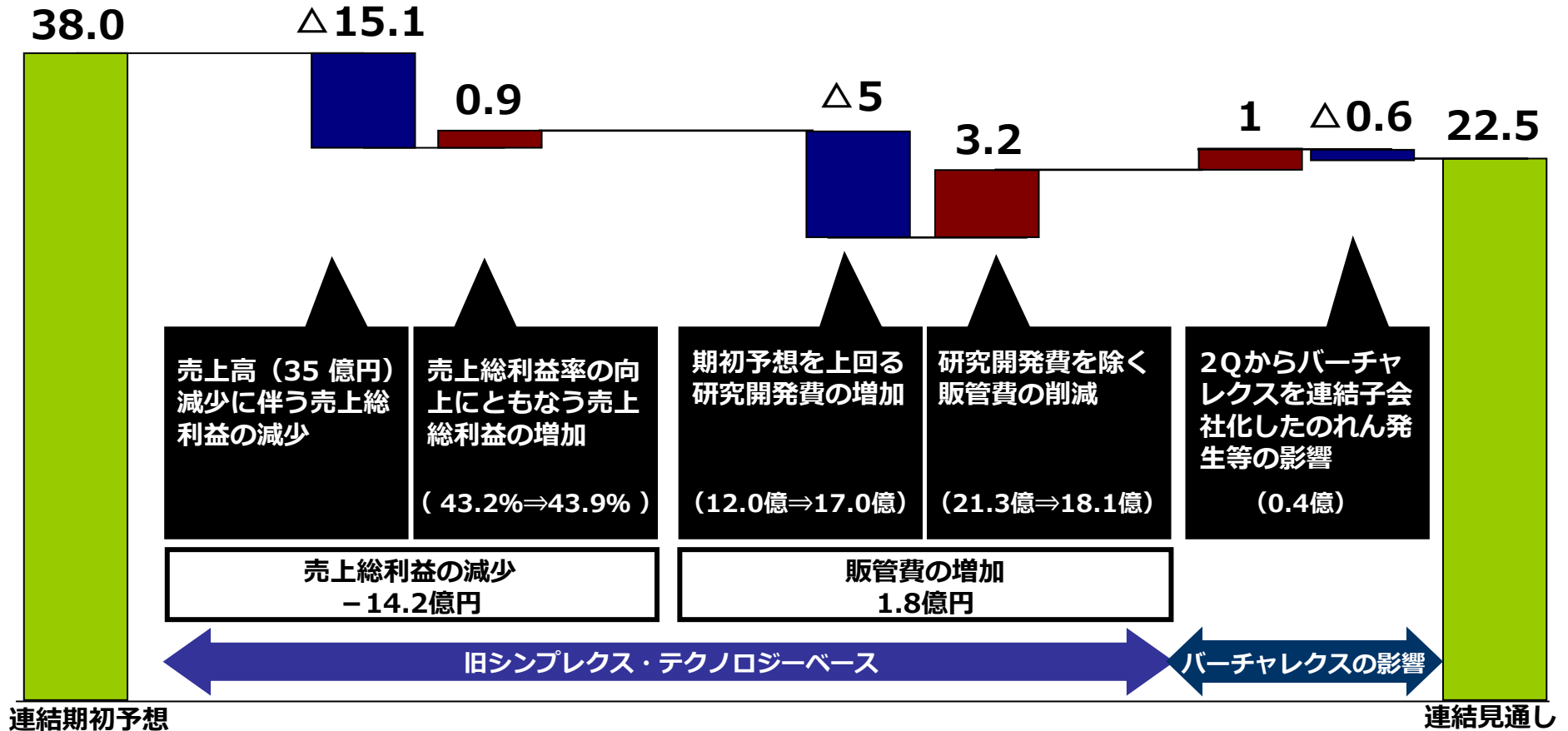
(単位：億円)



↓ 通期の連結売上高は、期初予想165.0億円を15.0億円下回る150.0億円となる見通し


通期営業利益（連結）の修正要因

(単位：億円)



↓ 通期の連結営業利益は、期中予想38.0億円を15.5億円下回る22.5億円となる

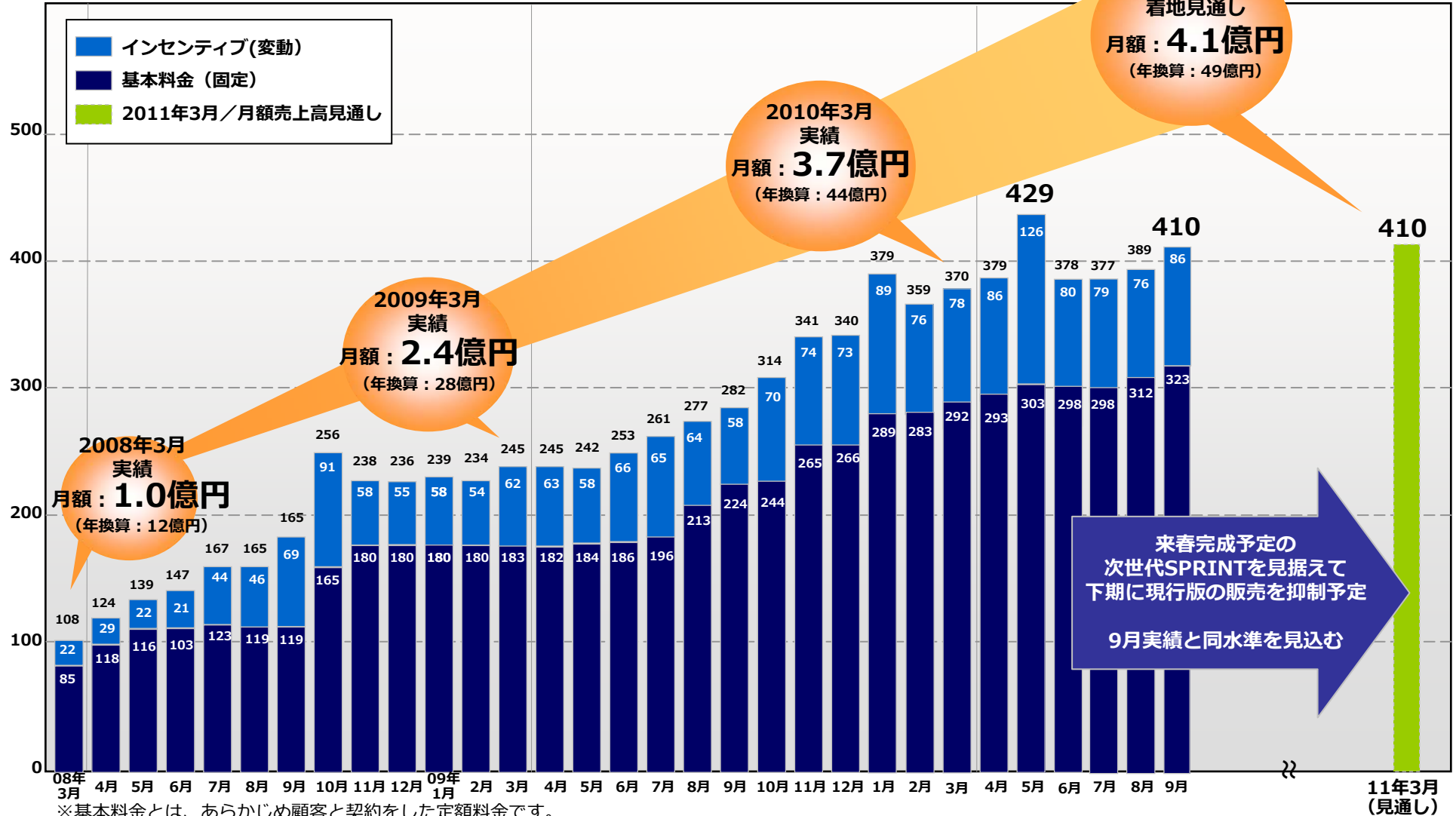
通期決算（連結）見通しのポイント

		期初予想 概算見通し		予想修正後 概算見通し		コメント
		売上高	売上総利益率	売上高	売上総利益率	
SI		約67億円	40%	約54億円 (約5億円)	42% (31%)	大型SI案件の受注時期等を勘案すると、今期の通期連結業績への寄与は小さい見込み (シンプレクス分：約49億円/43%)
	保守	約17億円	50%	約16億円	52%	
UMS	導入	約28億円	40%	約15億円	56%	次世代インターネット取引システムの来春完成を見据え、現行システムの販売を抑制するため期初予想よりも売上高が低下予定
	サービス	約50億円	44%	約48億円	35%	レバレッジ規制により、FX案件で一定の影響がでる見通し 大証FXの取引量は拡大するも、引き続き当該セグメントの利益率を押し下げる見通し 特定のFX案件で発生した障害対応に伴うコスト増により利益率が低下する見通し
アウトソーシング		—	—	約15億円 (約15億円)	19% (19%)	バーチャレクス連結子会社化により新しい事業セグメントとして計上
その他（物販）		約3億円	100%	約2億円	100%	物販売上の手数料部分のみを計上するネットティング処理を実施
合計		165億円	43.2%	150億円 (20億円)	41.0% (22%)	 旧シンプレクス・テクノロジーベース ■売上高見通し：130億円 ■売上総利益率見通し：43.9%

※（ ）の数値はバーチャレクス分の概算見通しです。

UMS(サービス) 月額売上高の推移

(百万円)



※基本料金とは、あらかじめ顧客と契約をした定額料金です。
 ※インセンティブとは、「手数料収入課金」などサービスを利用することによって生じる顧客の収益に連動する料金です。
 ※2011年3月時点の見通しは、2010年9月末時点の契約済案件から計上しています。変動部分の見通しは、保守的に見積もった当社予測によるものです。
 ※年換算値は、月額売上高の値を12倍して算出したものです。

UMS(サービス) 「SPRINT」 導入実績

2010年9月末現在

	対応商品						
	株式 (現物・信用)	先物・ オプション	FX			債券	CFD
			OTC ^{※1}	くりっく365 ^{※2} 22社中9社が採用	大証FX ^{※3} 12社中10社が採用		
 SPRINT Pro スプリント・プロ リッチクライアント PC版	野村証券 松井証券 マネックス証券 先物系証券会社1社	野村証券 松井証券 マネックス証券 先物系証券会社1社	インヴァスト証券 ジャパンネット銀行 ソニー銀行 マネーパートナーズ	インヴァスト証券 大和証券 野村証券	岩井証券 インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 野村証券 ひまわり証券 マネックス証券 むさし証券 ゆたか証券 松井証券	△	△
 SPRINT Mobile スプリント・モバイル リッチクライアント 携帯電話版 ^{※4}	野村証券 松井証券 マネックス証券 先物系証券会社1社	松井証券 マネックス証券 先物系証券会社1社	インヴァスト証券 野村証券 (iPhone含 む) ソニー銀行 マネックスFX マネーパートナーズ	豊商事	△	△	△
 SPRINT Basic スプリント・ベーシック ウェブブラウザ版	△	野村証券	インヴァスト証券 スター為替証券 ジャパンネット銀行 ソニー銀行 マネックスFX 大手証券1社 ネット專業証券2社	インヴァスト証券 サイバーエージェントFX スター為替証券 住信SBIネット銀行 大和証券 野村証券 三田証券 豊商事	岩井証券 インヴァスト証券 光世証券 コスモ証券 野村証券 ひまわり証券 マネックス証券 むさし証券 ゆたか証券 松井証券	導入実績あり	大和証券

※1 ウェブブラウザ専用のOTC対応版は、SI事業として大和証券、ひまわり証券、マネーパートナーズに納入しております。

※2 ウェブブラウザ専用のくりっく365対応版は、SI事業としてコスモ証券に納入しております。

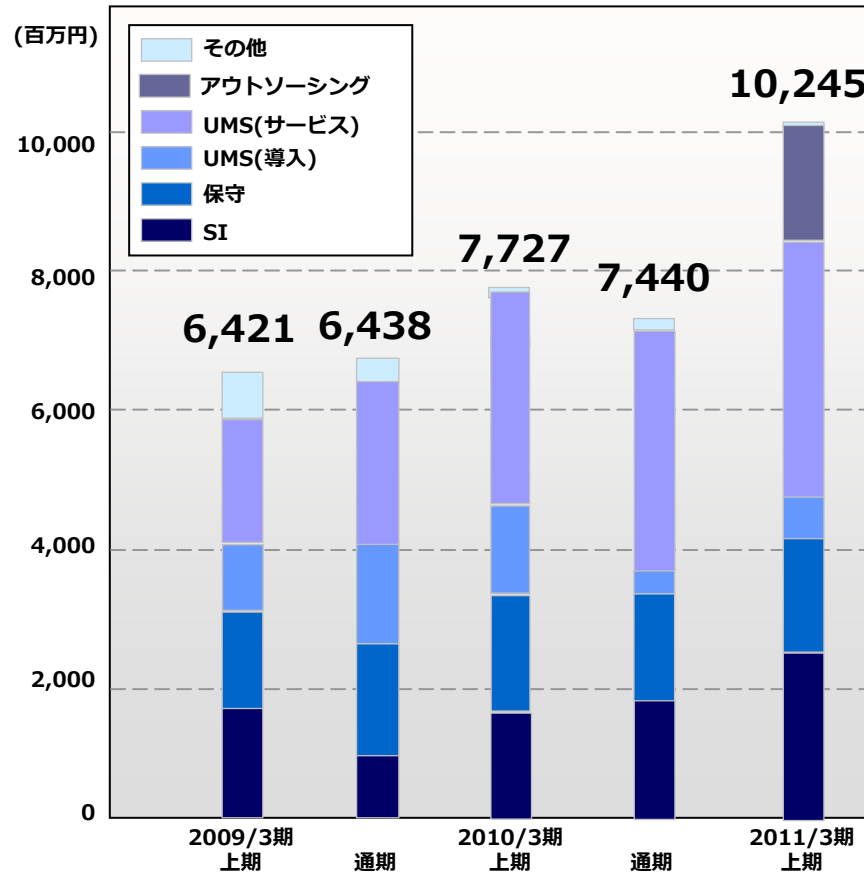
※3 大証FX対応版は、2009年7月21日よりサービスを開始しております。なお、マーケットメイカー向けシステムをマネーパートナーズに提供しています。

※4 SPRINTとは、多彩な注文機能と分析機能を搭載した個人投資家向けインターネット取引サービスの総称です。

リッチクライアントとは、専用のソフトウェアをダウンロードすることで高い操作性・表現力・機能性を実現するアプリケーションの総称です。

△…今後対応予定の商品・チャネル

受注残高（連結）の推移：事業セグメント別



2011/3期2Q受注残高：102.4億円 (注1)
(前期比：+32.6%)

うち当期計上予定分：58.8億円 (注2)

上期受注残高(102.4億円)の内訳

- シンプレクス・コンサルティング分：78.0億円
- パーチャレクス分：24.4億円
- ⇒ アウトソーシング：17.1億円 / SI：7.3億円

(注1) 上期受注残高には、変動部分であるUMS（サービス）のインセンティブ売上高は含まず、基本料金売上のみを計上しています。

(注2) 当期計上予定分の受注残高には、来期検収予定の進行基準案件に関する今期計上予定の売上高は含まれておりません。

事業セグメント	2009/3期 上期	2009/3期 通期	2010/3期 上期	2010/3期 通期	2011/3期 上期
その他	628	300	90	171	97
アウトソーシング	-	-	-	-	1,797
UMS(サービス)	1,797	2,244	3,181	3,606	3,827
UMS(導入)	749	1,419	1,358	295	356
保守	1,524	1,578	1,591	1,503	1,597
SI	1,721	895	1,504	1,863	2,568

通期売上高（連結）見通しの達成確度について

A	通期売上高（連結）見通し	150億円
B	受注済案件 今期計上予定分	134億円
	2Q売上高	(66.9億円)
	今期計上予定受注残高	(58.8億円)
	来期検収予定の進行基準案件に関する売上高 ※	(約2.8億円)
	UMS（サービス）インセンティブ売上高 ※	(約5.2億円)
A - B	下期に新規受注することで今期売上計上すべき総額	- 16億円

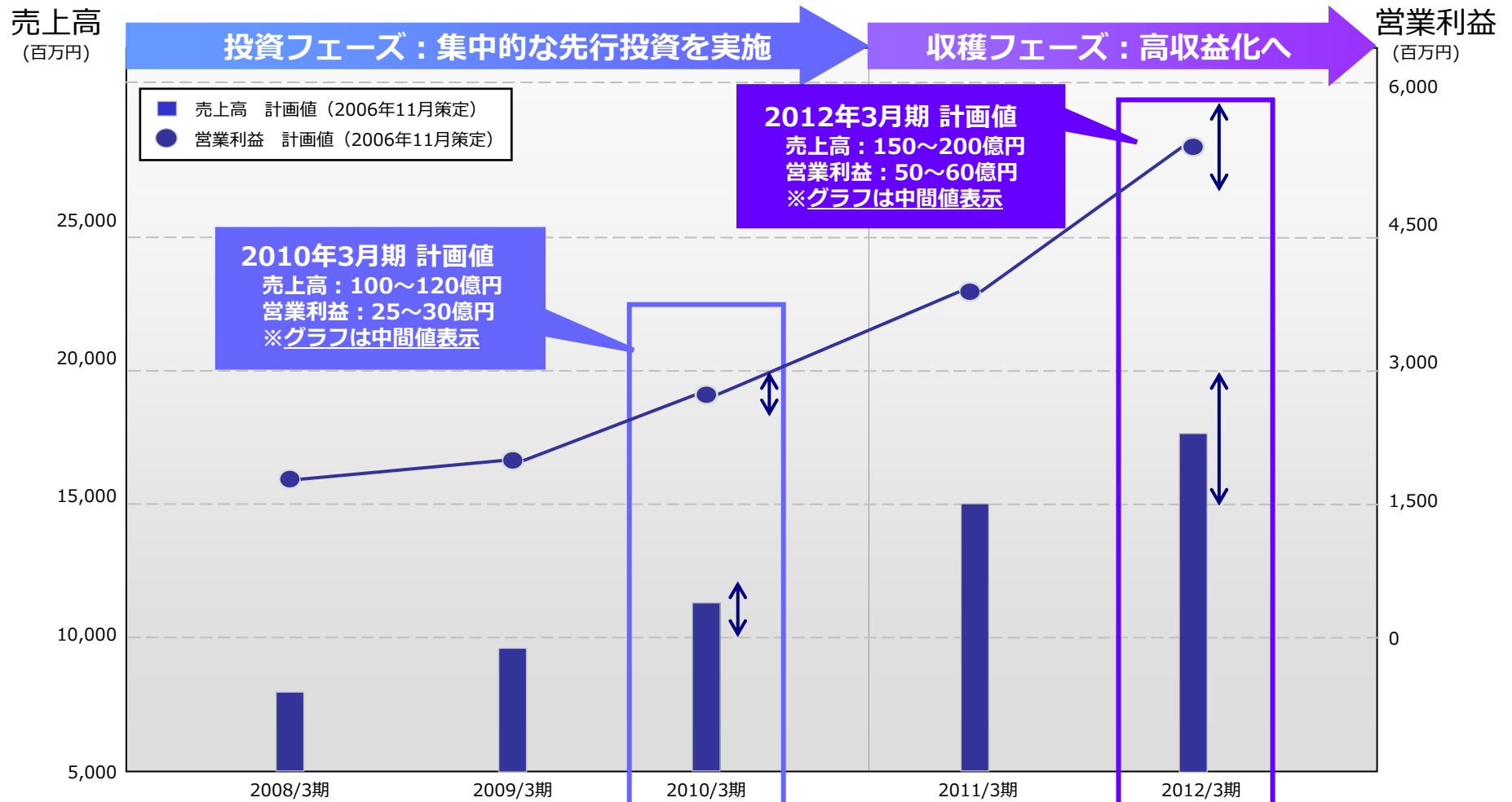
下期に新規受注することで今期売上計上すべき総額：16億円
（前期下期実績：18億円）

現在提案中の案件に加え、下期に新規発生する案件の早期受注を目指す

※ 「来期検収予定の進行基準案件に関する売上高」および「UMS（サービス）インセンティブ売上高」につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。実際の業績はこれらの見通しと異なる結果となる可能性があります。

第二次中期事業計画について

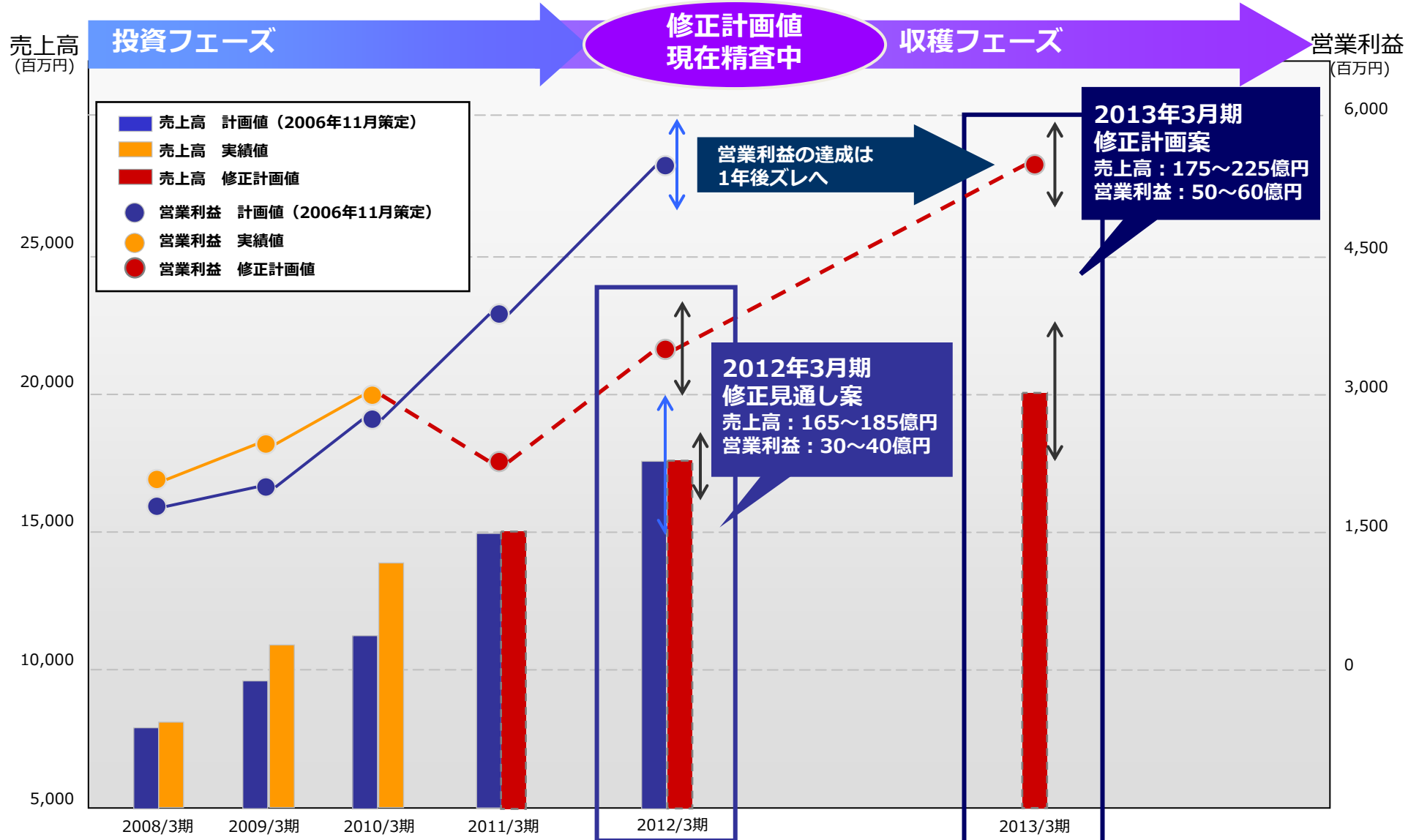
従来の第二次中期事業計画（2006年11月策定／5カ年計画）



**今回の業績下方修正を受けて第二次中期事業計画を5カ年⇒6カ年へと延長する
修正第二次中期事業計画を来年5月までに発表予定（最終年度営業利益は従来予想を目指す）**

※UMS事業向け先行投資として、5年間で50億円程度の投資を実施予定です。
※投資コストは各会計年度で費用化することを前提としています。

現状における修正第二次中期事業計画案（5カ年⇒6カ年計画に延長予定）



来期（2012年3月期）業績（連結）見通しの前提

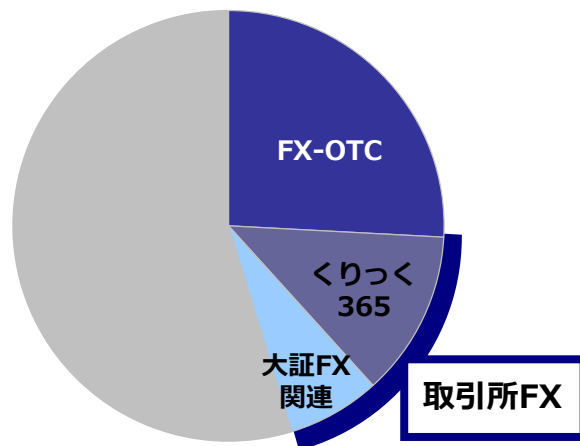
	今期業績見通し	来期業績見通し	来期業績見通しの前提
売上高	150億円	165～185億円	大型SI案件を1件受注できた場合に 中間値（175億円）を達成できる見通し
（内研究開発費） 販管費	39億円（17億円）	40億円（15億円）	次世代SPRINTに対する研究開発費予算を 来期も計上するが、研究開発費総額は 今期比2億円の減少となる見通し
営業利益	22.5億円	30～40億円	次世代SPRINTのサービスイン等の 影響による収益力の向上

**大型SI案件の獲得、次世代SPRINTの早期開発に注力し
修正第二次中期事業計画（最終年度2013年3月期）の目標達成を目指す**

補足資料

FXを巡る市場環境に対するリスク分析

2011年3月期 2Q売上高におけるFX系売上高構成比



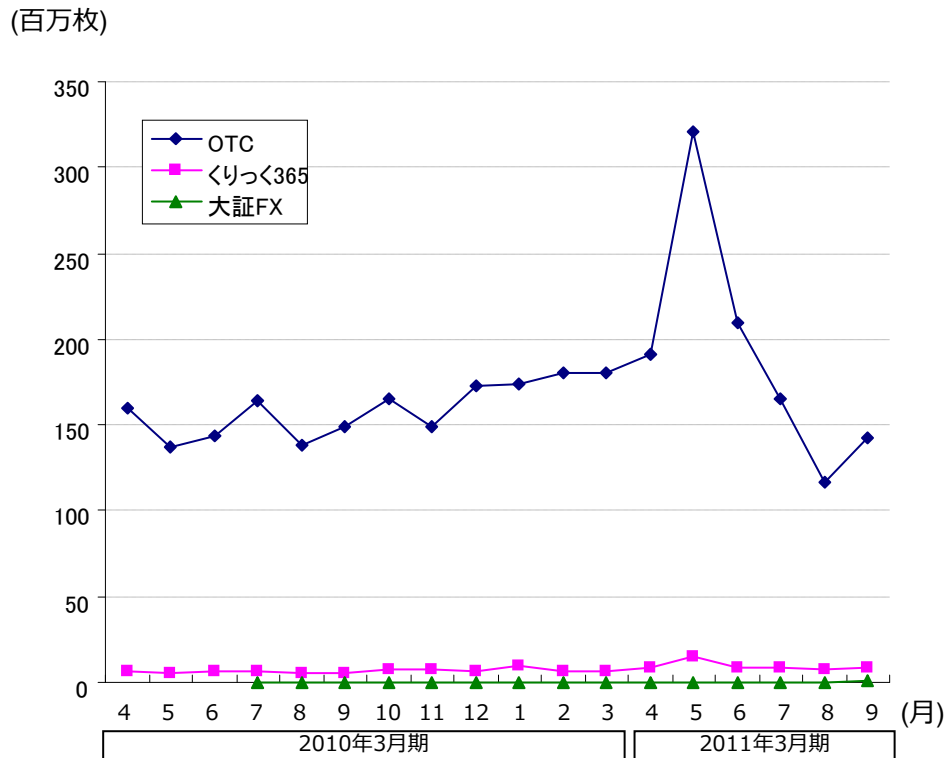
2011年3月期 2Q売上高に
占めるFXの割合 : **45.3%**

取引所FX向けシステムにおいて圧倒的シェアを確立
 ■くりっく365取扱業者向け：22社中9社が当社システム
 ■大証FX取扱業者向け：12社中10社が当社システム
 (2010年9月末現在)

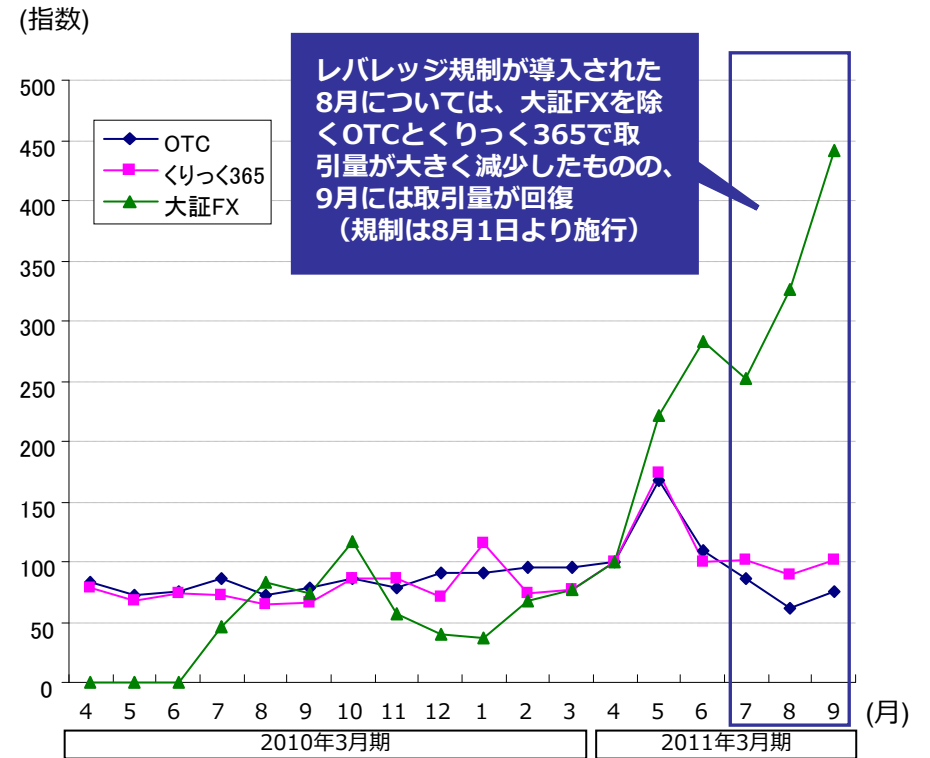
金融庁の改正内閣府令が求める内容	改正内閣府令に対する当社の状況と影響
レバレッジ（証拠金）規制の導入	2010年8月1日からレバレッジ50倍まで 2011年8月頃からレバレッジ25倍までに規制される
区分管理方法の 金銭信託一本化	OTC、取引所FXともに、当社顧客は顧客預り証拠金の完全信託を 導入済みのため、当社への影響はなし
ロスカットルール整備と 遵守の義務付け	システム対応が求められ、当社システムの優位性が訴求できるため、 当社にとっては追い風となる可能性あり

レバレッジ規制前後のFX取引量の推移 (市場全体)

FX市場取引量推移



FX市場取引量推移(2010年4月を100とした指数)



総括

規制により一定の影響は受けるものの限定的なものと判断
影響が出尽くしたことにより新規参入者も出現する余地あり

※出典：金融先物取引業協会、東京金融取引所、大阪証券取引所 各HP

バーチャレクスの連結子会社化について

■ バーチャレクス・コンサルティング株式会社の連結子会社化（当2Qより51%保有）

業務内容	コールセンター／CRM分野に関するコンサルティングと アウトソーシングサービスおよびソフトウェアの提供
子会社化の背景	当社主力顧客である大手金融機関における対顧客戦略強化の活発化
取得株式数／投資コスト	取得株式数 988 株（取得価額：51 百万円）
今期連結業績への寄与 （売上高・営業利益）	上期 ⇒売上高で6億円の増収に寄与する一方、営業利益への寄与はほぼゼロ 通期 ⇒売上高で20億円の増収となり、営業利益では、1億円の増益に寄与する一方 のれんの償却費として0.6億円計上する見込み